

関西私鉄沿線都市を対象とした地域イメージの分析*

An Image Analysis of Railroad Line Area in Kansai*

栄健一郎**, 土井勉***, 木内徹***, 三星昭宏****, 北川博巳*****

By Kenichiro SAKAE **, Tsutomu DOI ***, Toru KIUCHI ***, Akihiro MIHOSHI ****, Hiroshi KITAGAWA *****

1. はじめに

現在、都市の個性化を促すような地域計画が重要である。都市の個性を考える上で、地域の人々がその地に抱く潜在的な“思い入れ”すなわち地域イメージを明らかにする必要がある。地域イメージについては、種々の研究が報告されている。佐佐木らは、地域の個性を見つけるために、地域の風土や歴史に着目した¹⁾。この考え方から、西井らによるLogMap法を用いた構造分析²⁾や佐佐木らによる民話や文学に着目した方法³⁾などが発展してきた。本研究では、これらの考え方をもとに、大阪を母都市とした関西の私鉄3線を例にとり、地域イメージを形成する因子が、どのように評価されているのかを調査し、分析した。

2. 研究の概要

(1) 調査の概要

調査においては、阪急神戸線、近鉄奈良線、南海本線および高野線の関西私鉄3沿線に着目し、沿線の住人とその鉄道利用者を対象に制限連想法とSD法によるアンケート調査を実施した。ここで「まち」や地域に対する潜在的なイメージと各沿線固有の地域イメージを把握し、それらを比較検討するために名詞群を2種類に分類した。1つは、「山」、「鉄道」など一般的な山、「阪急」などその地域にしか存在しない名詞を表す固有名詞群（構成地物）を用いる。また、地域を構成する物的な名詞ばかりを挙げずに、「イベント」な名詞を表す普通名詞群であり、もう1つは、「六甲山」、「阪急」などその地域にしか存在しない名詞を

表す固有名詞群（構成地物）を用いる。また、地域を構成する物的な名詞ばかりを挙げずに、「イベント」や「スポーツ」など人間の活動や文化を表現すると思われるソフトな分野の名詞も挙げた。普通名詞群の総数は121個挙げ、構成地物の総数はそれぞれ、阪急沿線で148個、近鉄・南海沿線で117個設定した。調査方法は、最初に被験者の住むまちをイメージする普通名詞を普通名詞群の中から20～25個被験者に選ばせる（名詞群A）。つぎに、被験者が選んだ名詞群Aの特定の名詞について最もイメージが似ている名詞を名詞群Aの中から重複しないように選ばせる（名詞群B）。この調査から得た結果をもとにイメージマップを作成する。さらに、名詞群Aの中から最も強くイメージする普通名詞を5個選ばせ、11組の形容詞対についてSD法により評価してもらう。最後に被験者の住むまちのイメージについてもSD法による評価をしてもらう。構成地物についても同様に行い、最後に「沿線地域」のイメージをSD法によって評価してもらう。性別（男女）、職業（社会人、学生）を均等になるように考慮してアンケートを配布した。標本数は阪急沿線で150票、近鉄沿線で132票、南海沿線で107票、総計389票となった。

(2) 調査結果

制限連想法の調査からイメージマップを作成した。普通名詞によるイメージマップにおいては、3線とも阪急沿線のイメージマップによく似たイメージ構造になっており、構成地物によるイメージマップでは3線で沿線固有のイメージ構造がみられる。例として阪急沿線のイメージマップを図1に示す。つぎに、SD法の調査からイメージプロフィールを作成した。普通名詞のほうは3線とも評価の分布が類似しているが、構成地物では異なった分布になり、地域固有のイメージプロフィールをうかがうことができる。しかし、この調査では、SD法の設問数が少なく、普通名詞に対応し

*キーワード：計画手法論、計画情報、地域計画、空間設計

**学生員、近畿大学大学院工学研究科土木工学専攻

（東大阪市小若江3-4-1, TEL 06-721-2332, FAX 06-730-1320）

***正員、工修、阪急電鉄（株）文化・技術研究所
（大阪市北区芝田1-10-1, TEL 06-373-5348, FAX 06-373-5347）

****正員、工博、近畿大学理工学部土木工学科
（東大阪市小若江3-4-1, TEL 06-721-2332, FAX 06-730-1320）

*****正員、工修、近畿大学理工学部土木工学科
（東大阪市小若江3-4-1, TEL 06-721-2332, FAX 06-730-1320）

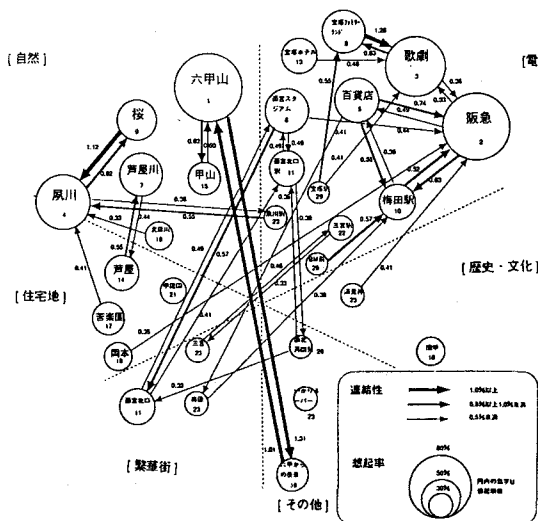


図1 阪急沿線の構成地物のイメージマップ

ている構成地物があり多くないためSD法に対する補完調査を行った。

3. SD法による補完調査

補完調査では、一般的なまちを形成する因子として存在すると考えられる普通名詞を18個選択し、各沿線において普通名詞と該当する構成地物をとりあげた。調査方法は、普通名詞と構成地物についてSD法による同様の評価をしてもらう。構成地物の数は、阪急沿線で23個、近鉄沿線で18個、南海沿線で19個設定した。標本数は阪急沿線で25票、近鉄沿線で44票、南海沿線で33票、総計102票となった。

4. 調査結果

結果として、前回の調査によく似たイメージプロフィールが得られた。特に顕著に表れた例を挙げると、図2は「イベント」のイメージプロフィールを図3は「イベント」に対応する各私鉄沿線の構成地物のイメージプロフィールを示したものである。普通名詞は評価の分布がほぼ類似しているといえるが、構成地物の方では、各沿線特有の分布となった。とくに、“女性的な—男性的な”という比較で評価の違いが目立つ。南海沿線の「岸和田だんじり祭り」についてみると、評価の突出した形容詞が6項目あることから、地域

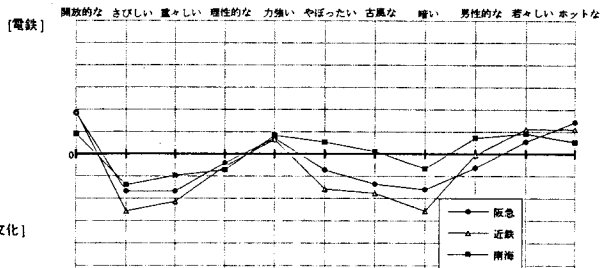


図2 「イベント」のイメージプロフィール(普通名詞)

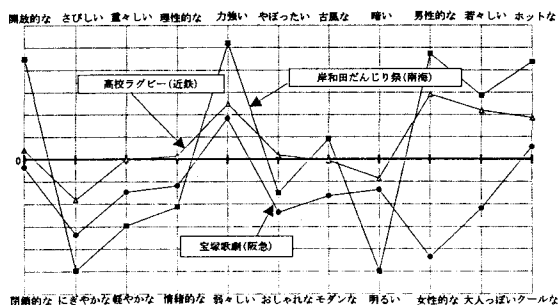


図3 「イベント」のイメージプロフィール(構成地物)

をイメージする重要な因子の1つであると考えられる。

5. まとめ

本研究では、関西の私鉄3線を対象として2種類の名詞による地域イメージの調査を行った。結果として、地域イメージを形成する因子の評価は普通名詞と構成地物では異なっていることがわかった。普通名詞の評価は、3線ともほぼ同じであるが、構成地物のイメージプロフィールの評価は、沿線によって異なっている。このことより普通名詞には普遍的なイメージプロフィールが存在すると考えられる。また、普通名詞の評価を基準として、構成地物の評価との差をみると、地域の個性が明らかになると考えられる。

【参考文献】

- 1) 西井和夫、佐佐木綱：風土分析に基づく都市・地域計画の新たな展開，土木計画学研究・講演集No. 15(2)，pp. 143～147. 1992
- 2) 西井和夫：地域イメージとその構成に関する風土分析手法，土木計画学研究・講演集No. 14(1)，pp. 213～220. 1991
- 3) 竹林幹雄、佐佐木綱、東徹：民話を用いた地域づくりに関する研究，土木計画学研究・講演集No. 14(1)，p. 221～228. 1991